



## ご挨拶

本日は“*A-Winds*35”2011年秋の演奏会にお越し下さり、誠に有難うございます。「こころ豊かな文化の香り高き町 大和郡山市」のお城の麓“やまと郡山城ホール”で皆様方と、こうしてお逢いすることができましたことに、*A-Winds*一同、心より感謝申し上げます。

今から12年前の1999年10月“アンサンブル”という少人数の音楽スタイルの延長上にと位置付けた“ウィンドオーケストラ”と称し、大人数の編成にて、平城遷都1300年の歴史を誇る奈良の都に発足しました。

同年の秋に初の舞台“デビュー演奏会”を開催し、以後四季折々に開催する、*A-Winds*奈良アマチュアウィンドオーケストラの定期演奏会も、お陰さまを持ちまして、第35回目の演奏会を迎えることができました。

これもひとえに、我々*A-Winds*の活動、そして音楽をこよなく愛して下さった皆様方の御指導、御支援の賜物と、団を代表致しまして心より厚く御礼申し上げます。

演奏面は勿論、運営面において、団員一人ひとりが『主人公』ということと、吹奏楽本来の特徴を最大限に引き出す『吹奏楽オリジナル作品』を中心に取り上げることを活動方針に掲げ、アマチュアながらも、音楽表現の研究に、作曲家の方々を実際に練習にお招きして、作曲家自身による作品の生い立ちや、楽曲の紐解き解説を聞きながら合奏指導を受けたりと、様々な啓蒙にも取り組み、活動を続けて参りました。

今回は、Aリードと並ぶアメリカ吹奏楽の巨頭バーンズ氏が、天逝という苦悩と、その運命という現実、そして明るい未来への思いを込めて書かれたと言われる、また一般的な吹奏楽曲とは一線を画した、吹奏楽の為の交響曲「第3番」を取り上げ、披露致します。

客演指揮者にお招きした井村誠貴氏の渾身のタクトで、バーンズ氏の思いを、舞台、そして客席の皆様と一緒に、吹奏楽のサウンドで共有できる音楽を披露できればと願いを込め、一句詠ませいただきます。

### 輝きは 失せることなく 交響曲

今後とも、温かい御指導御支援の程、宜しくお願い申し上げます。

*A-Winds*奈良アマチュアウィンドオーケストラ 団長 魚谷昌克

\*

本日は“*A-Winds*35”2011年秋の演奏会にお越しいただき誠にありがとうございます。今回は、5年ぶりに客演指揮として井村誠貴氏をお迎えし、吹奏楽の魅力をつぶりと感じて頂けるような、趣向を凝らしたプログラムをご用意しました。

第1部は「カンタベリー・コラール」の厳かな雰囲気の中で静かに幕開けします。2曲目は趣をがらりと変え、金管楽器のファンファーレが華やかな「交響的序曲」をお送りします。

第2部では、パーカッションパートおよびサクソフォン&ピアノパートが、それぞれ趣向を凝らしたステージを披露いたします。大編成とは違った少人数アンサンブルの面白みを感じていただければと思います。

第3部では、井村誠貴氏指揮のもと、ジェイムズ・バーンズ作曲「交響曲第3番」に挑戦します。全4楽章から成り、吹奏楽曲としては珍しく演奏時間が40分に及ぶ大曲です。さまざまな楽器のソロパートが随所にありますので、そちらもお聞き逃しなく。作曲者が曲に込めた思いを少しでも皆様にお届けできるよう心を込めて演奏しますので、どうぞ最後までごゆっくりお楽しみください。

最後に、本公演開催にあたり関係各方面よりご支援賜りました事を、演奏会実行委員を代表して厚く御礼申し上げます。

“*A-Winds*35”2011年秋の演奏会 実行委員長 宮本 祐輔



## ご案内

### “*A-Winds*36”2012年春の演奏会

2012年3月3日(土) 16:00開演 やまと郡山城ホール 大ホール

“*A-Winds*36”2012年春の演奏会では辰年に因んだ曲から始まり、春のボカボカ陽気を思わせる牧歌風の組曲で皆様をスコットランド北部地方の、のどかな風景へとご案内いたします。第2部では、作曲家の高昌帥氏を客演指揮にお迎えして夜の時間へ……。誰もがご存知の「キラキラ星」をアレンジした曲と、メインには大人の夜の時間を連想させるサクソとピアノのデュエットの折り込んだ「ゴースト・トレイン」をご用意して、みなさまのお越しを心よりお待ちしております。

“*A-Winds*36”2012年春の演奏会 実行委員長 佐藤 由加里



## *A-Winds* 奈良アマチュアウィンドオーケストラ

Piccolo & Alto Flute  
佐藤 由加里♪

Flute  
佐藤 司♪  
魚谷 陽子  
西村 美音  
坂下 英美

Oboe  
松井 志穂♪  
松本 美里☆

English Horn & Oboe  
深沢 亮子♪

Clarinet  
長尾 恭子◇  
竹村 明恵  
森本 幸恵  
上野 彩香◇  
八木 望♪  
野島 佳織  
日野上 昌里佳  
近藤 晴美  
川口 咲乃♪  
飯田 琴音

Alto Clarinet  
大西 晴己

Bass Clarinet  
辻田 綾子♪  
尾崎 玲奈☆

Contra Alt Clarinet  
小山 優美☆

Bassoon  
満江 孝文  
萱原 美華子

Contra Bassoon & Bassoon  
田中 信幸☆

Saxophone  
島田 博一  
初岡 和樹  
宮本 祐輔  
三宅 利幸

Horn  
久野 耕三  
次田 哲平  
小林 計昭  
大田 雅美  
山中 美咲♪  
丸岡 由依

Trumpet  
魚谷 昌克  
表 恭子◇  
篠木 章江  
竹腰 綾香♪  
井上 寛治  
三方 裕司  
谷田 弥生  
大西 伸幸☆  
山本 洋介☆

Trombone  
萱原 淳嘉  
小泉 文浩  
鈴木 恵子  
進藤 梓  
田中 由美

Euphonium  
藤村 晃世  
尾登 勇介♪

Tuba  
楠 陽介♪  
岸本 和♪  
敷知 愛奈

St. Bass  
佐藤 良一☆

Percussion  
森田 晶  
谷口 麻子  
久保 寛美  
川本 理恵  
松嶋 春香  
荒井 智子☆

Piano  
八木 真木

Harp  
池端 千種☆

Stage Manager  
河津 雅之

Announce  
境 貴子

団員 = 55名  
◇ = 休団  
☆ = エキストラ  
♪ = *A-Winds*35 実行委員



## *A-Winds* メンバー募集

### ● 募集パート

・オーボエ ・Bbクラリネット ・ファゴット ・チューバ ……各1名  
・コントラバス ・パーカッション ……各2名

- *A-Winds*の活動趣旨(ウィンドアンサンブル&オリジナル重視)に賛同頂ける方
- ご自分で楽器を準備できる方
- 全ての活動に賛同頂ける方
- 18歳以上の方
- 詳細はお問い合わせ下さい。

問い合わせ先は <e-mail>a-winds@amber.plala.or.jp



# 2011年 秋の演奏会

2011年11月13日(日) 13:30開場 / 14:00開演  
やまと郡山城ホール 大ホール

主催 ● *A-Winds* 奈良アマチュアウィンドオーケストラ  
後援 ● 奈良県・大和郡山市・大和郡山市教育委員会・奈良県吹奏楽連盟



## プログラム

### ◇第1部 団員指揮者：魚谷昌克

#### カンタベリー・コラール

#### Canterbury Choral

作曲：ヤン・ヴァン・デル・ロースト／Jan Van der Roost

出版：De Haske

### 交響的序曲

#### Symphonic Overture

作曲：ジェイムズ・バーンズ／James Barnes

出版：Southern Music Company

### ◇第2部・アンサンブル・ステージ

#### パーカッションパート

#### 光の隙間

#### A Gap of Light for Five Percussionists

作曲：樽屋雅徳

#### サクソパート

#### 木星のファンタジー

#### Fantasy on Theme of Jupiter

作曲：グスターヴ・ホルスト 伊藤康英／G. Holst Ito Yasuhide

#### サクソ & ピアノパート

#### オペラ座の怪人

#### The Phantom of the Opera

作曲：アンドリュー・ロイド＝ウェバー／A. Lloyd Webber

編曲：大島忠則／Oshima Tadanori

### ◇第3部 客演指揮者：井村誠貴

#### 交響曲第3番

#### Third Symphony

作曲：ジェイムズ・バーンズ／James Barnes

出版：Southern Music Company



## プログラムノート

カンタベリー・コラール／ヤン・ヴァン・デル・ロースト(1956-)

イングランドの南東部に位置する伝統と歴史ある街カンタベリーは、周囲を城壁で囲まれた城郭都市で、街の中心部には英国国教会の権威を持つカンタベリー大聖堂があります。まっすぐ伸びた柱に支えられた高い天井の身廊は壮観であり、またステンドグラスから射し込む太陽光の色彩は美しく、“イギリスで最も天国に近い場所”ともいわれています。

交響的序曲／ジェイムズ・バーンズ(1949-)

この作品は、アメリカ空軍軍楽隊の創立50周年を記念して1991年に作曲された、一言で表すと大変ゴージャスな序曲です。

作曲者のジェイムズ・バーンズは、スケールバンド向けの吹奏楽作品から本格的なクラシック作品まで幅広い作風を持っていますが、この『交響的序曲』は、冒頭の輝かしい金管ファンファーレ、シンコペーションを利かした軽快なメロディ、色彩感あふれる美しい中間部、重厚な終曲など、彼のこれまでの数々の作品の魅力を凝縮させた傑作の1つといえます。

光の隙間／樽屋雅徳(1978-)

宇宙(太陽)から飛んでくる電子を帯びた粒子(プラズマ)が地球の大気と衝突し、そのとき発生するエネルギーが光となったのがオーロラです。

オーロラはゆらゆらと揺らめきながら形を変えて、まるで生きている光が大地で載れているよう。オーロラの光の隙間からシンフォニーでも聞こえてくるような気がします。(作曲者)

木星のファンタジー／グスターヴ・ホルスト(1874-1934) 伊藤康英(1960-)

イギリスの作曲家G.ホルストの管弦楽組曲「惑星」より木星の中間部に登場するメロディはとても有名で、歌詞を付けて歌われることも多く、日本では2003年に平原綾香の「Jupiter」としてヒットしました。また、オーケストラのみならず様々な楽器・編成のために編曲がされています。今回は、伊藤康英によってサキソフォン四重奏のためにアレンジされた曲を使用しました。

オペラ座の怪人／アンドリュー・ロイド・ウェバー(1948-)

ミュージカル「オペラ座の怪人」は1986年にロンドンで初演されて以来、今日まで世界各国で上演され人気を博しています。物語は19世紀のバリ・オペラ座を舞台に、オペラ座の地下に住み人々から恐れられるファントムと、コーラスガールのクリスティン・ダーエ、その幼なじみであるラウル子爵の三角関係を中心に描かれています。今回は、オペラ座の怪人より、“Overture”，“The Phantom of the Opera”，“Think of me”，“The Music of the Night”のメドレーを、サキソフォンとピアノのためのアレンジでお送りします。

交響曲第3番／ジェイムズ・バーンズ(1949-)

この作品は、ワシントンのアメリカ空軍軍楽隊の委嘱により、1994年に作曲されました。当初、1995年12月に同軍楽隊により初演される予定でしたが、演奏旅行が中止となったため、1996年6月の大阪市音楽団による演奏が世界初演となりました。

作曲者のジェイムズ・バーンズによると、この作品に取り掛かった当時は、ナタリーという2人目の子供を生後わずか半年で亡くしたばかりの精神的に大変苦痛な時期で、もしタイトルを付けるとするなら、「悲劇的」とするのがふさわしいであろうと、フルスコアの解説に記しています。更に各楽章については、以下のように述べています。

この作品は、絶望の深い暗闇から、成就と歓喜の輝きへと進んで行きます。

第1楽章(レント～アレグロ・リトミーコ)

挫折、苦難、絶望、落胆といった、愛する娘を失った後の私的な感情の全てが反映されています。

第2楽章(スケルツォ)

風刺とほろ苦さを持って、世界中のある種の人々の尊大さや自惚れを表現しています。

第3楽章(メスト“ナタリーのために”)

もしナタリーが生きていたら、という世界を描いた幻想曲であり、また彼女への別れの言葉でもあります。

第4楽章(フィナーレ／アレグロ・ジョコーソ)

心を取り直し、運命を甘んじて受け入れる気持ちを表現しています。この楽章の第2主題は、ナタリーの葬儀で歌われたルーテル教会の賛美歌「神の子羊」を基にしています。

歌の最後の詩節は次のようなものです。

*誰が私と同じように幸せでしょうか*

*多分今はもう神の子羊*

*そして私の短い生涯が終わったとき*

*神の天使によって守られ*

*神の胸に抱かれるでしょう*

*神の胸を枕として*

この作品を仕上げた3日後に、息子のピリーが生まれました。第3楽章がナタリーのための楽章であれば、第4楽章はまさにピリーのための楽章であり、姉であるナタリーを失った後に彼を授かった我々の喜びでもあります。



## プロフィール

## 井村誠貴



オペラ指揮者。1994年大阪音楽大学コントラバス科卒業。在学中よりオペラ指揮者として各地で研鑽を積み、これまでに菊池彦典氏をはじめ、多くの日本を代表する指揮者のもとでアシスタント・コンダクターとして多くの公演に携わり高い評価を得ている。オペラレパートリーも50演目を越え、主要作品の他にも、オペレッタや邦人作品の初演にも力を注いでいる。中でも喜歌劇楽友協会におけるJ.シュトラウス「ウィーン気質」の邦人初演は注目を集め、高い評価を得ている。2001年には年間オペラ公演回数が日本人では第4位に入るなどオペラ指揮者としての地位を確立。また同年イタリアに留学。現地ではAs. Li. Coの北イタリア・オペラ公演ツアーに同行し、副指揮者として高い評価を得た。管弦楽では、京都フィルハーモニー室内合奏団を中心にコンサートを定期的に行う一方、名古屋フィルハーモニー交響楽団、京都市交響楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団、大阪交響楽団、オペラハウス管弦楽団等を客演。また岐阜県交響楽団、大阪市民管弦楽団、京都府立医科大学交響楽団、神戸大学交響楽団、大阪市立大学交響楽団等との定期演奏会を客演指揮するなど、アマチュアオーケストラの分野においても貴重な存在となっている。さらに大阪市音楽団、ナゴヤディレクターズバンド等の吹奏楽団との関係も深く、その分野でも注目を集めている。近年はミュージカルにも活動の場を広げ、1999年の「ラ・カージュ・オ・フォール」(市村正親)を皮切りに、「マイ・フェアレディ」(大地真央)、「レ・ミゼラブル」(山口祐一郎)、「ペテン師と詐欺師」(鹿賀丈史)、「The Musical AIDA」(安欄けい)、「キャバレー」(藤原紀香)のロングラン公演を成功させライブCD及びDVDを発売。また、岩崎宏美や、尾崎紀世彦、佐々木秀実らの実力派シンガーとの共演も多く、コンサートでの軽妙なトークも話題となっている。その活動の幅は指揮活動だけにとどまらず、オペラ演出、企画構成、さらには編曲者としての活動も著しく、マルチな才能を発揮。クラシック音楽にとらわれない幅広いジャンル、年間200公演近くに及ぶ実績と、繊細且つダイナミックな指揮は、多くのファンを魅了し続けている。指揮を、湯浅勇治氏をはじめ、松尾葉子、広上淳一、辻井清幸の各氏に師事。現在、オーケストラMF I 指揮者。